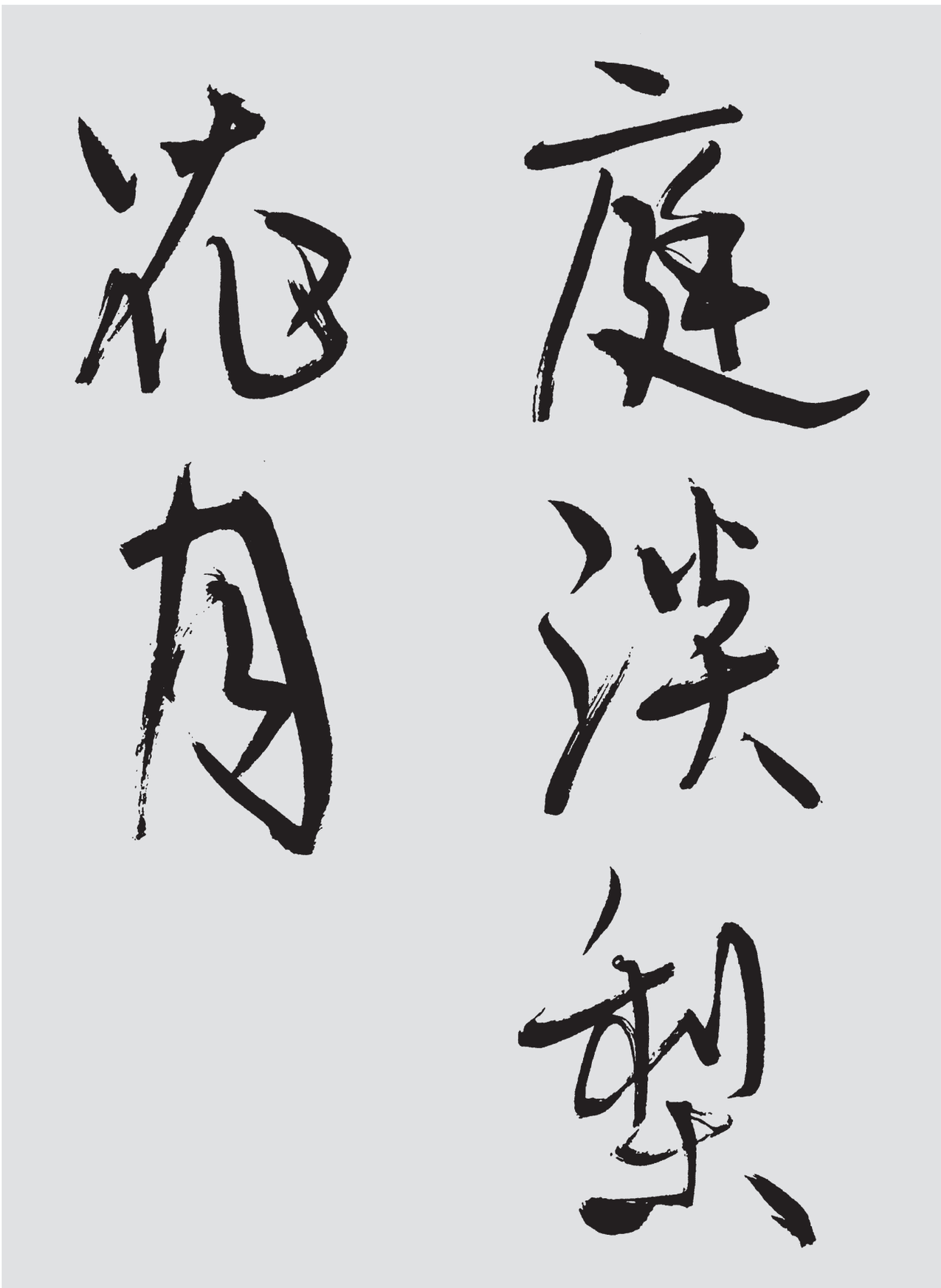
参　考　手　本

明月花徑を留む

高木聖雨先生

※これは規定課題ではありません。

参　考　手　本



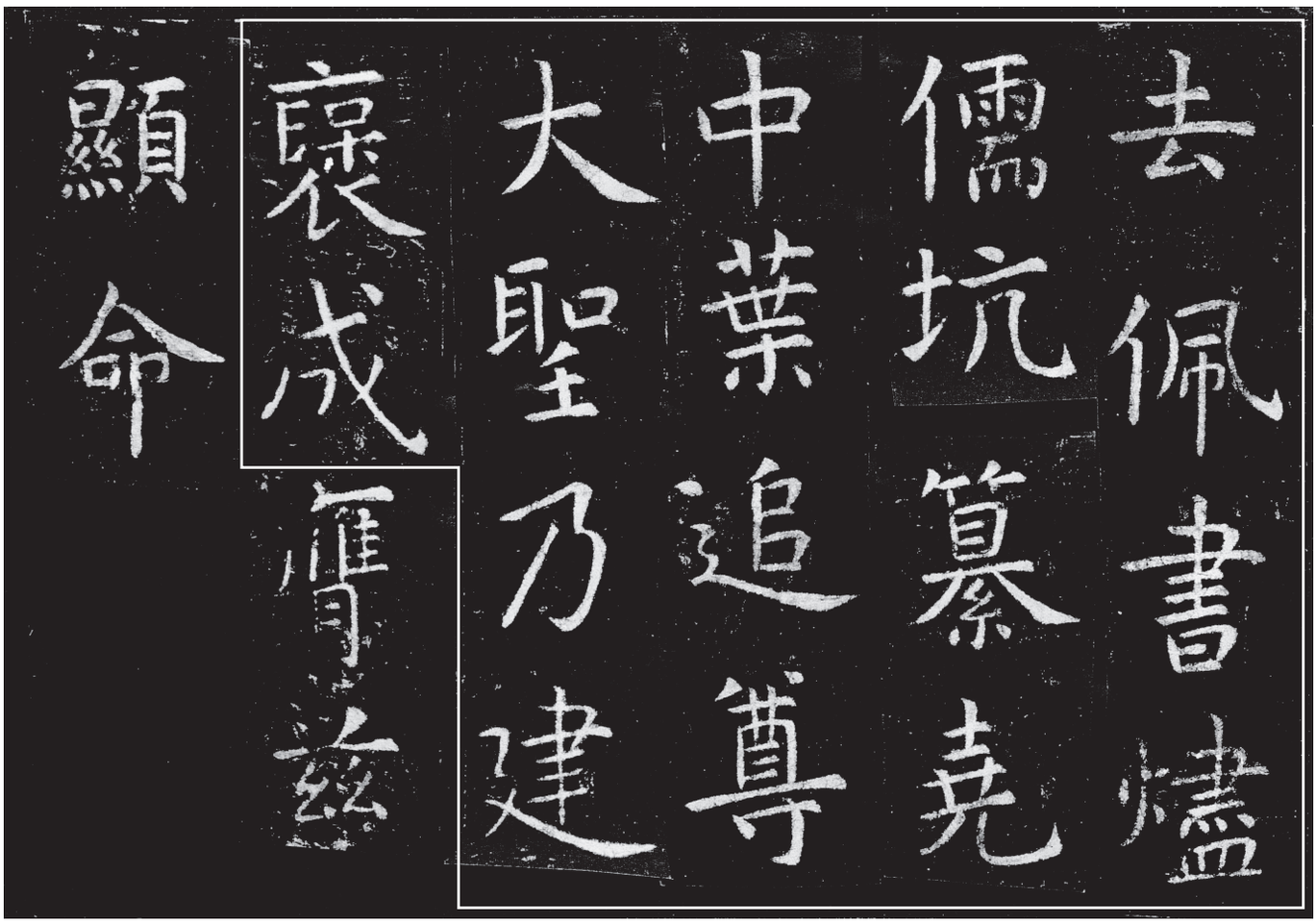
庭に淡く梨花の月

成瀬映山先生

※これは規定課題ではありません。

条幅規定

A部（準五段以上）



虞世南（ぐせいなん）（唐）『孔子廟堂碑（こうしびょうどうひ）』⑫

去佩。書燼儒坑。纂堯中葉。追尊大聖。乃建褒成。膺茲顯命。

佩（はい）を去り、書は燼（や）かれ儒は坑（あなうめ）せらる。堯（ぎょう）を纂（つ）ぐ中葉は、追って大聖を尊（とうと）び、乃（すなわ）ち褒成（ほうせい）を建て、茲（こ）の顯命（けんめい）を膺（う）く。

礼装佩玉を捨て、経書を焚し、儒者を坑（あなうめ）す。漢高祖の堯をついでおこせし中葉には、追って大聖（孔子）を尊び、なお褒成侯を建て、この明らかなる天命を受け入れたり。

【今月の課題】

「去佩書燼儒坑纂堯中葉追尊大聖乃建褒成」（18字）

〔この課題を同月の条幅随意には出品出来ません〕

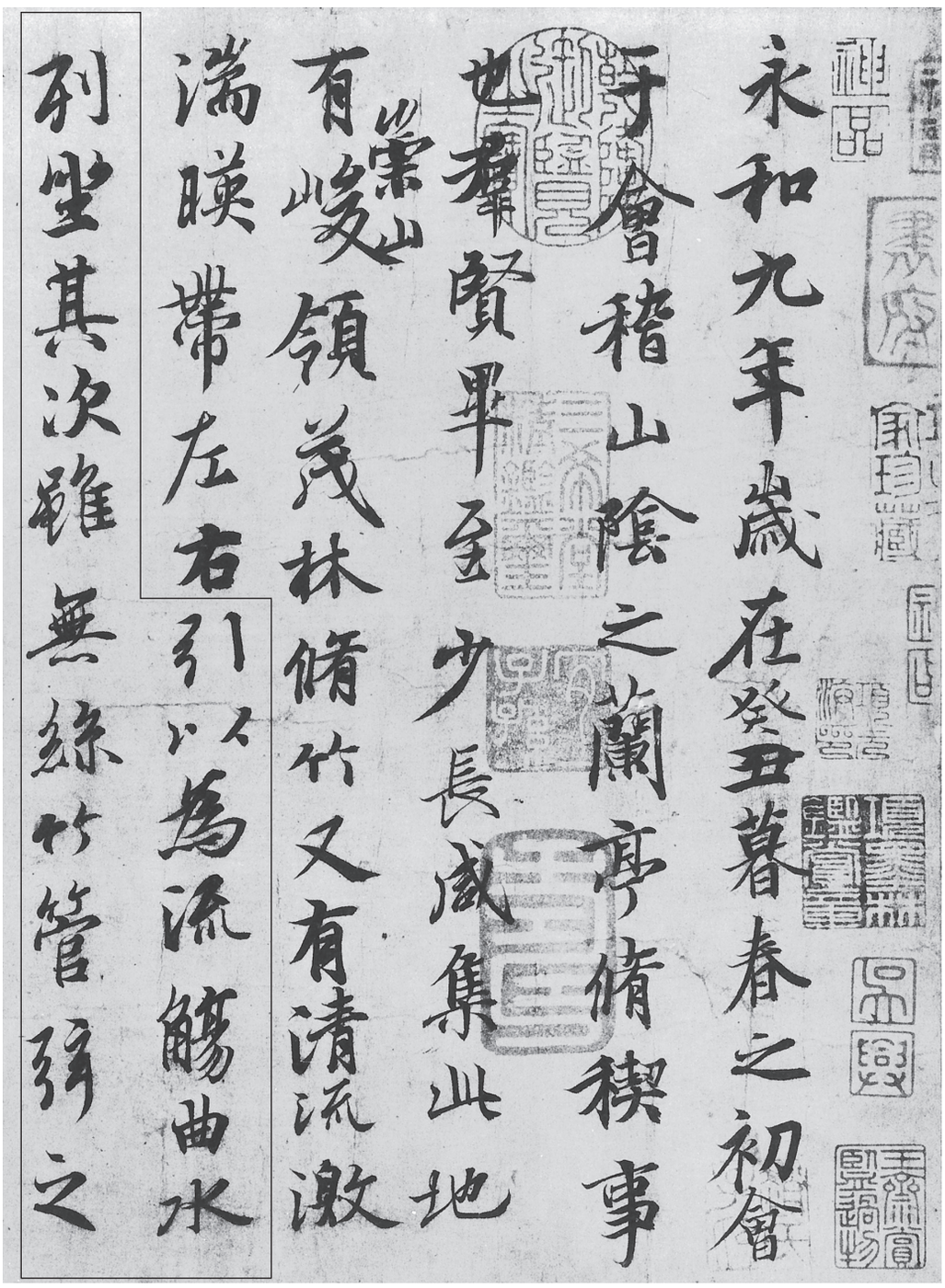
条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

（5月10日締切）

条幅規定

B部（四段以下）

『蘭亭叙』 王羲之（東晋）



永和九年。歳在癸丑。暮春之初。會于會稽山陰之蘭亭。脩禊事也。羣賢畢至。少長咸集。此地有崇山峻領。茂林脩竹。又有清流激湍。映帯左右。引以爲流觴曲水。列坐其次。雖無絲竹管弦之

永和九年、歳は癸丑に在り。暮春の初め、会稽山陰の蘭亭に会す。禊事を脩むるなり。群賢畢く至り、少長咸な集まる。此の地崇山峻領、茂林脩竹有り、又た清流激湍有りて、左右に映帯す。引いて以て流觴曲水を為し、其の次に列坐す。絲竹管弦の盛無しと雖も、

（5月10日締切）

【今月の課題】「引以爲流觴曲水列坐其次雖無絲竹管弦之」（18字）

〔この課題を同月の条幅随意には出品出来ません〕

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入して下さい

半紙規定 (一)

曹全碑（漢・作者不詳）

雍州之郊分

※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

雍州の郊に遷り分かれて

半紙規定 (二)

九成宮醴泉銘（唐・欧陽詢）

之令人壽東

※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隷書
〔一級以下〕楷書

人をして寿ならしむ」と。『東観漢記』に

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕

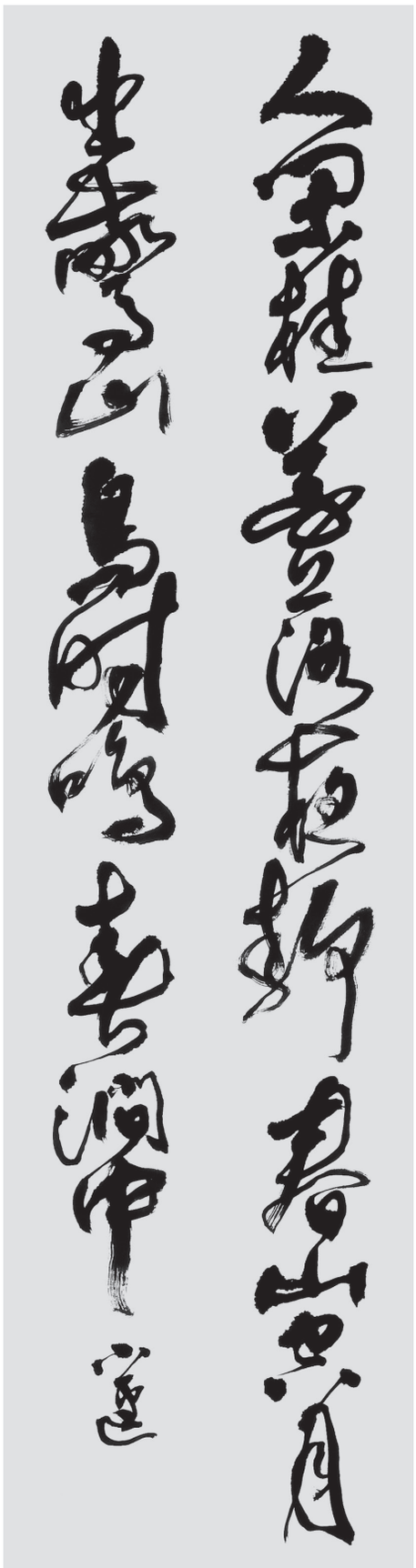
（5月10日締切）

条幅参考手本

野口紫仙先生

日飲長江水　誰知江上心　煙波渺無極　只爲別離深

日に長江の水を飲むも　誰か知らん江上の心　煙波渺として極まり無く　只だ別離の為に深し



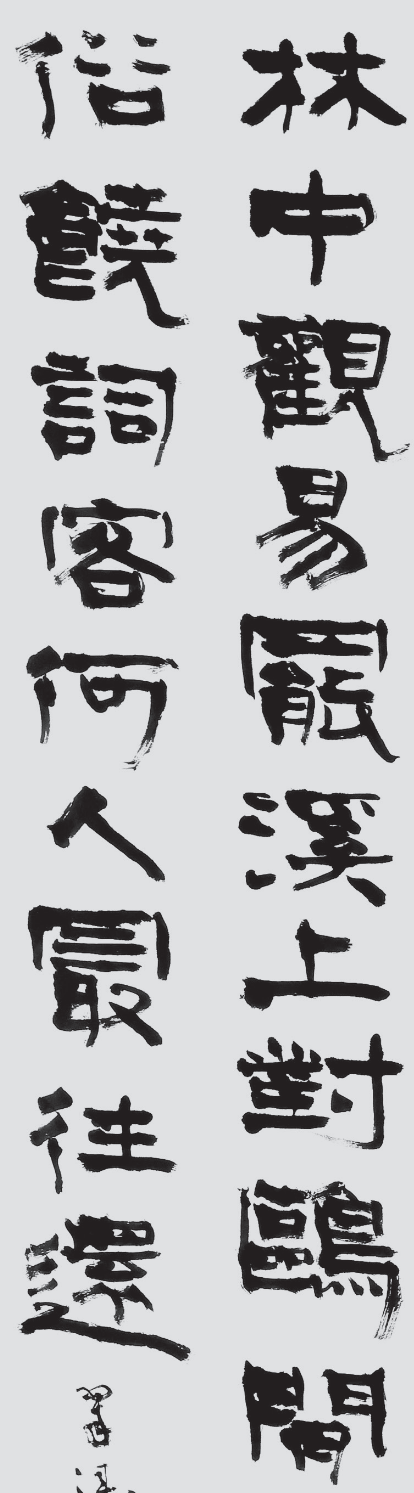
渡辺小逕先生

人閑桂花落　夜靜春山空　月出驚山鳥　時鳴春澗中

人閑にして桂花落ち　夜静かにして春山空し　月出でて山鳥を驚かし　時に春澗の中に鳴く

条幅参考手本

主幹　菅野翠濤



林中観易罷　渓上對鷗閒　楚俗饒詞客　何人最往還

林中易を観罷んで　渓上鷗に對して閒なり　楚俗詞客饒し　何人か最も往還する

条幅かな

浮乗清郷先生

支部名　段級　姓号（鉛筆）

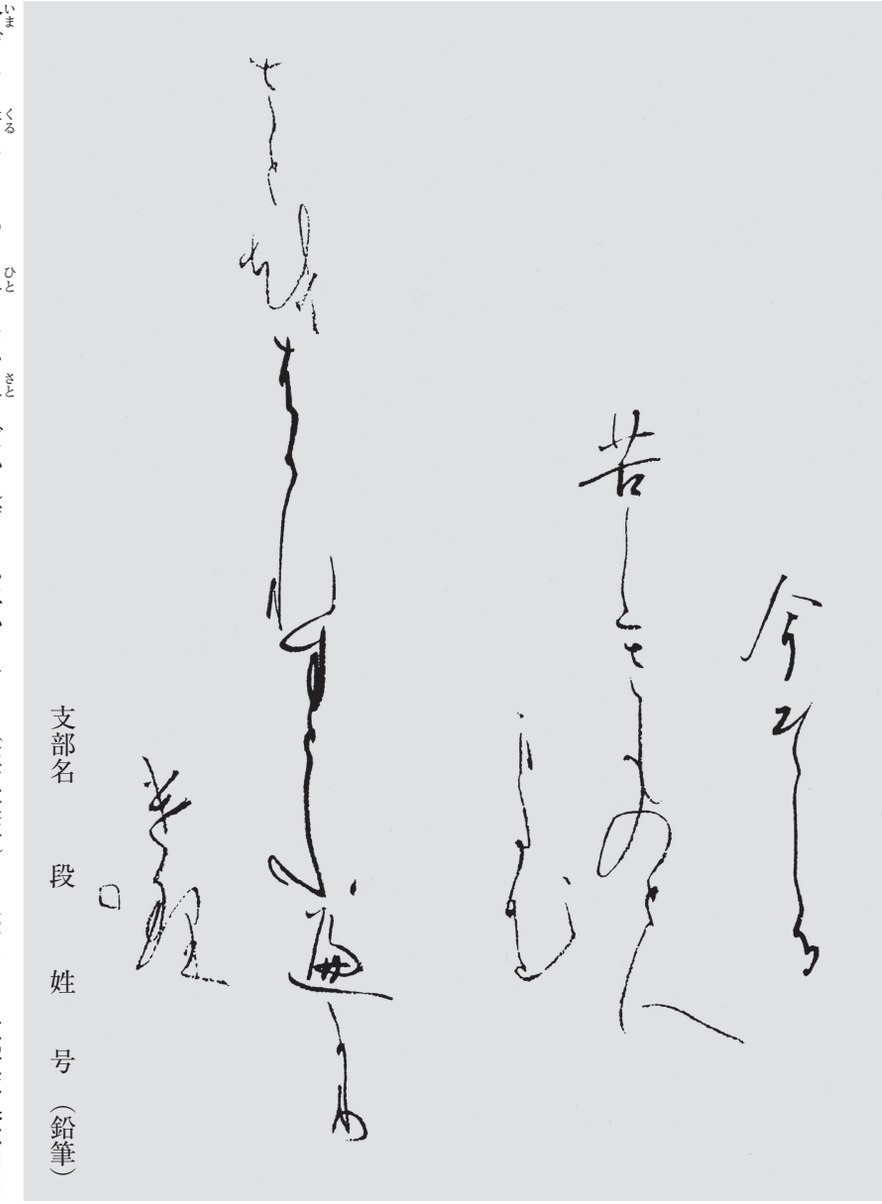
君（きみ）がため惜（を）しからざりし命（いのち）さへ長（なが）くもがなと思（おも）ひけるかな（藤原義孝）

可多免　可　斜利　遍なく可　母　奈　於も日　遣　可那

※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左下部に添え書きして下さい。

（5月10日締切）

半紙かな（初段以上）



今ぞしる苦しきものと人またむ里をばかれずとふべかりけり（在原業平）　※ちらし文字変換は自由

万多　さと　越者可　遍可利遣理

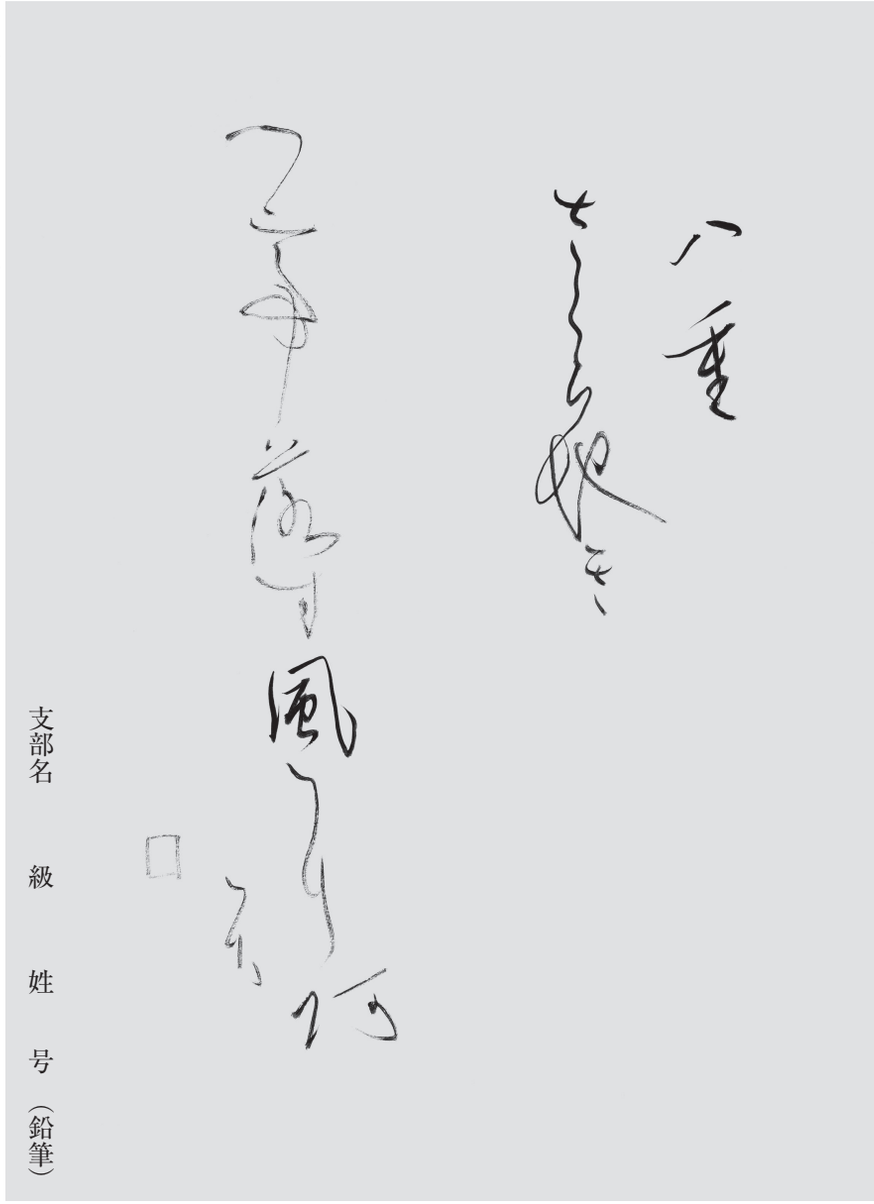
支部名　段　姓　号（鉛筆）

船久保棠苑先生

浮乗清郷先生

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

半紙かな（１級～８級）



八重桜ちぎって落す風に逢ふ（山口青邨）　※ちらし文字変換は自由

帝　さくら地　耳阿不

支部名　級　姓　号（鉛筆）

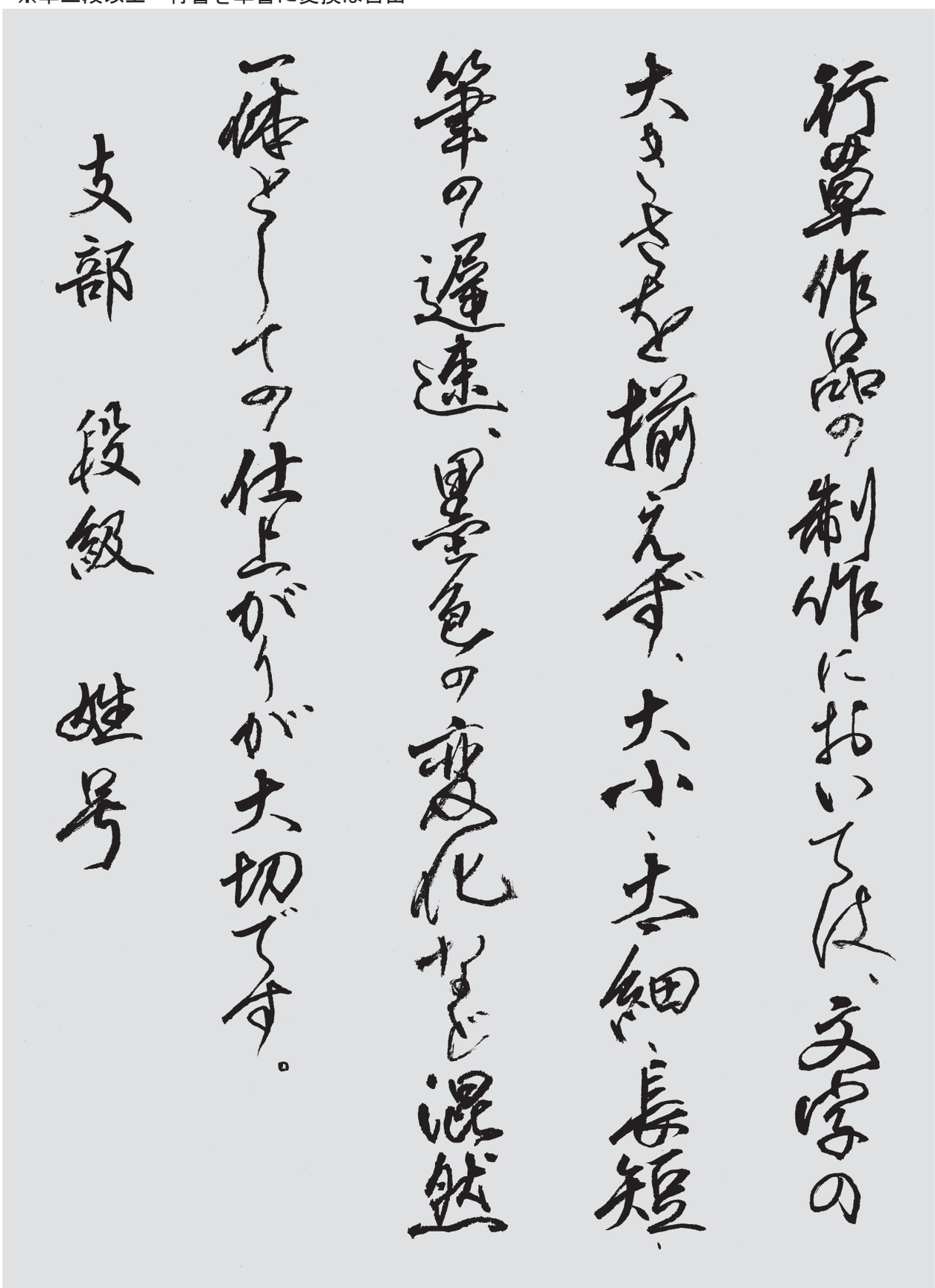
※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

（５月 10 日締切）

実　用　文

※準三段以上…行書を草書に変換は自由

〈書風任意〉

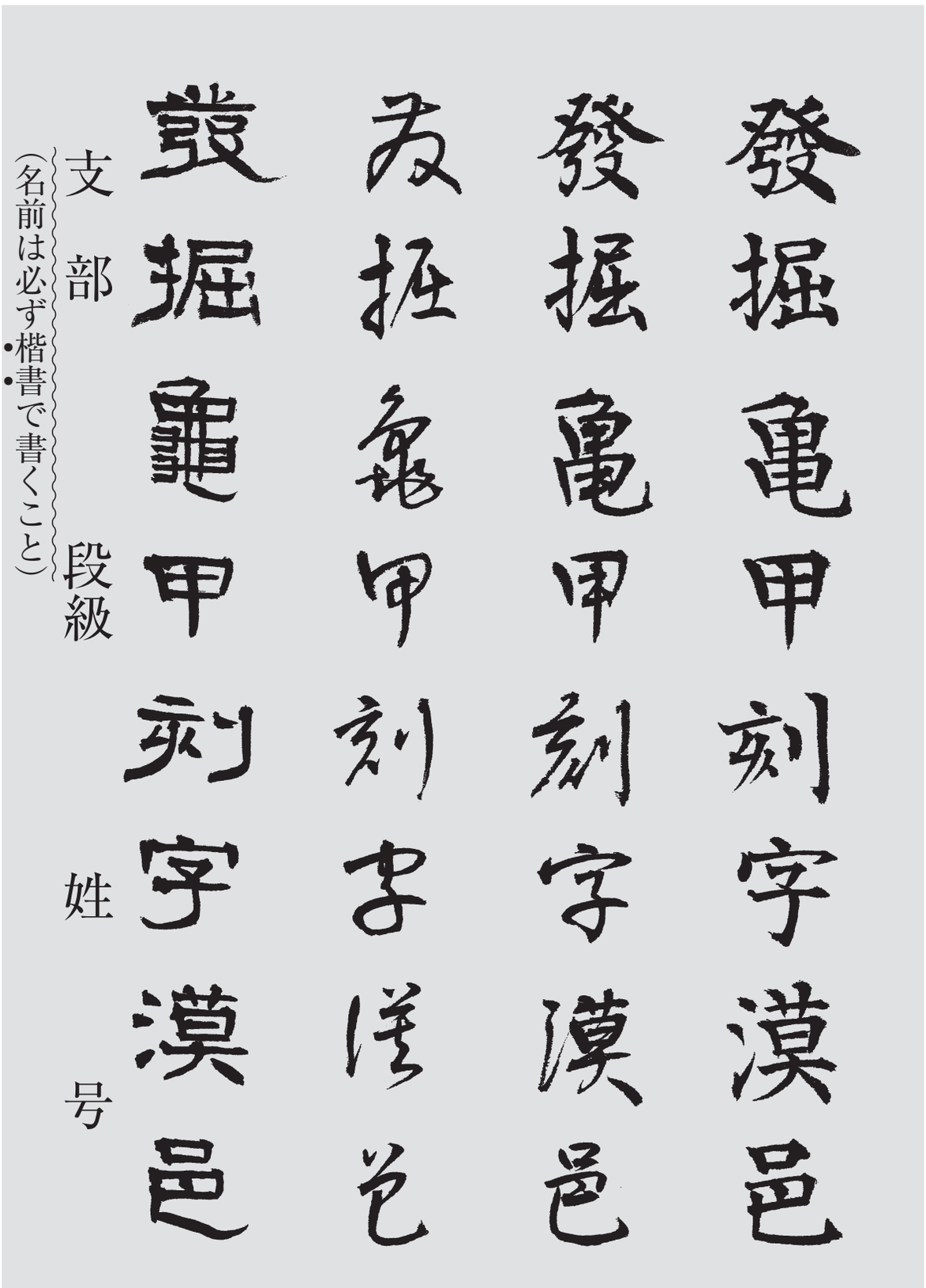


朝平霞山先生

（5月10日締切）

細　　字

高須翠雲書「五體昭和千字文」より　P34



主幹　菅野翠濤

※一級～八級は草書まで。　初段以上は隷書まで。

※名前は楷書以外では違反になります。

17cm（よこ）×24cm（たて）

漠（ばく）　邑（ゆう）　砂漠の部落。

（5月10日締切）

硬筆（初段以上）

3行、行草書

別れと出会いの春、卒業式、入学式
や転勤など四月は人生の新たな
転機の季節です。
支部名　　姓　　号

青柳江雲先生

…春、…転勤…季節…。

硬筆（1級以下）

2行、楷書

四月は花もたくさん咲き出し、全国
各地で桜が見頃を迎えます。
支部名　　級　　姓　　号

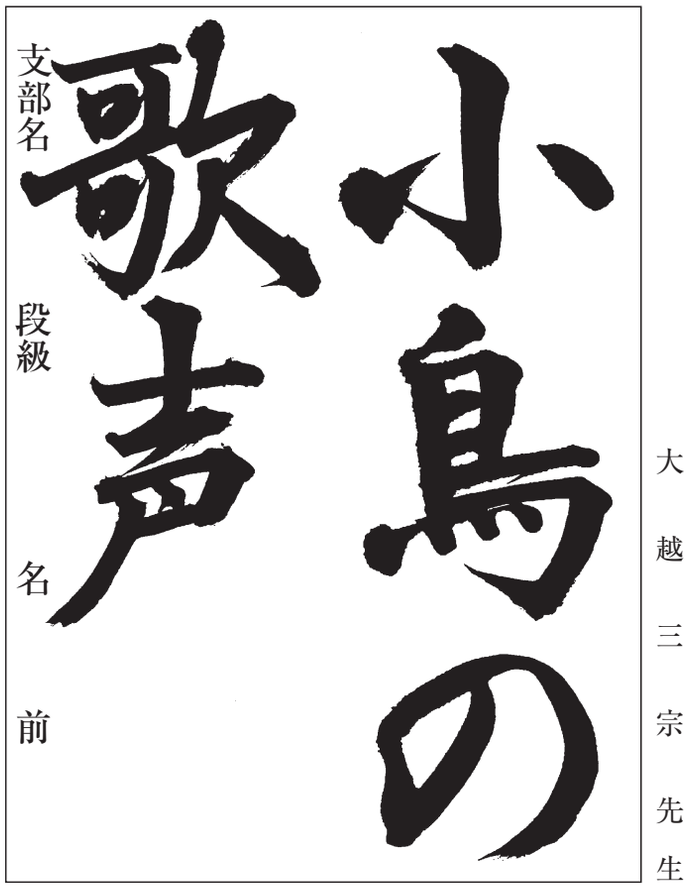
渡邊南嶂先生

※本院定型用紙・たて半分に書く

（5月10日締切）

中２用

中３用



小６用

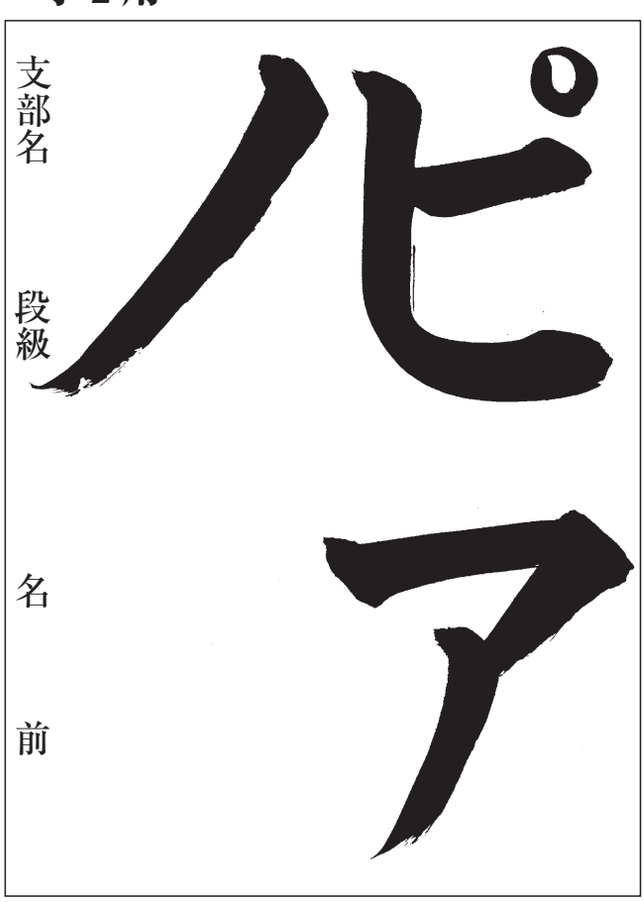
中１用

5月10日締切並びに前期昇段級試験課題（5月15日締切）

小４用

小５用

小２用



小３用

5月10日締切並びに前期昇段級試験課題（5月15日締切）

中１

湖は緑色の水をたたえ
静まり返っている。

中１～中３　青柳江雲先生

中２

未来へ一歩ずつ足を踏
みしめ前進しよう。

中３

古城は質素な造りに深
い気品をたたえていた。

小１・幼年用

支部名

段級

名前

鈴木翡恵先生

小１・幼年

あり、りんご、ごま、
まほう、うみ。

小１～小３　田辺翠鶴先生

小２

火よう日の音がくのじ
かんは、たのしいな。

小３

ようちえんの友だちと
同じ組になった。

小４

光がいっぱい、花もい
っぱいの四月が来た。

小４～小６　齊藤翡流先生

小５

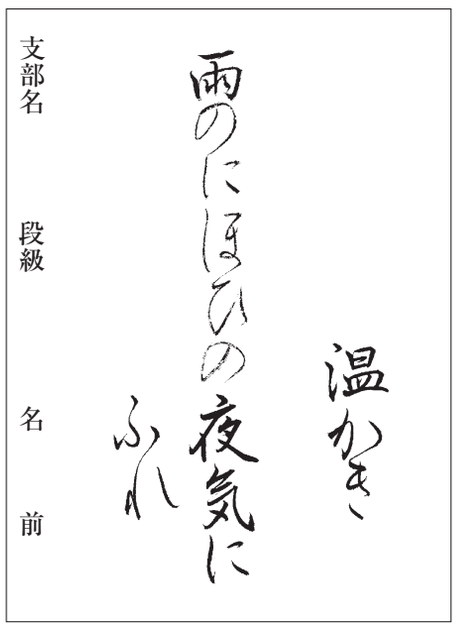
そよ風がほおに心地よ
い季節になりました。

小６

何事も最後までやりぬ
く気持ちが大切だ。

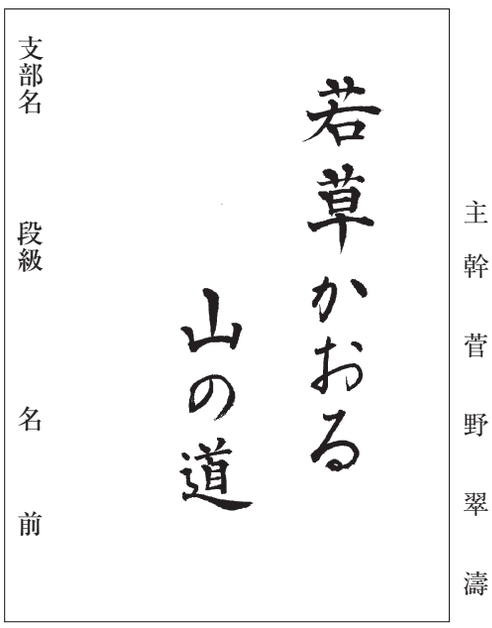
5月10日締切並びに前期昇段級試験課題（5月15日締切）

中学部かな課題



※半紙半分に書いて下さい。

小学部小筆課題



※半紙半分に書いて下さい。

5月10日締切並びに前期昇段級試験課題（5月15日締切）

6月10日締切課題予告

A部条幅規定課題が『書　譜』孫過庭（唐）に変わります。

A部条幅規定　書譜巻上呉郡孫過庭撰夫自古之善書者漢魏有

B部条幅規定　盛一觴一詠亦足以暢叙幽情是日也天朗氣

かな条幅規定　ふるさとの潮の遠音のわが胸にひびくをおぼゆ初夏の雲（与謝野晶子）

半紙規定（初段以上）　止右扶風或

半紙規定（一級以下）　観漢記日光

半紙かな（初段以上）　つくづくとひとり聞く夜の雨の音は降りをやむさへさびしかりけり（儀子内親王）

半紙かな（一級以下）　行く春やほうほうとして蓬原（正岡子規）

実用文　換鵞の語源は、王義之が鵞鳥が好きで、道士が飼育していたので欲しいと伝えたところ、「先生の書となら交換しましょう」と云った故事によるもの。

一般硬筆初段以上　五月、新暦では夏の始めの月。緑さす山ミも風物もみな生き生きと爽やかに感じられる。

一般硬筆一級以下　薫風とは、深緑の間を吹いて、若葉の香りを運んで来る快い風です。

令和7年書道コンクール課題6月13日㈮締切

高校毛筆　天高群星近

中三毛筆　初夏の海岸

中二毛筆　若草の山道

中一毛筆　谷川の流れ

小六毛筆　草木の芽

小五毛筆　時の流れ

小四毛筆　つり大会

小三毛筆　ふん水

小二毛筆　ガラス

小一毛筆　かみ

高校硬筆　換鵞五月号P13一般硬筆一級以下課題（行書も可）

中三硬筆　展望台に登ると、美しい海岸線が一望できた。

中二硬筆　行動する前に、深く思考することが大切です。

中一硬筆　木もれ日の中、空気を胸いっぱいに深呼吸。

小六硬筆　美しい文字は、正しい筆順からでき上がる。

小五硬筆　庭のバラが今年も美しい花を見せてくれた。

小四硬筆　深緑の林は、さわやかなかおりがします。

小三硬筆　学校の花だんで、ひまわりをそだてている。

小二硬筆　花ばたけでこどもたちが、ちょうをおう。

小一硬筆　もりには、とりやどうぶつたちがいます。